

の存在を假定してある。斯かる類ひの考が又印度人中にも萌芽しつつある。してその向ふを張るものといふのは外でもない。英國である。彼等は異人種の御主人様をその對手と看做すのである。蓋し此の考を非常に強めたのは日露戦争の結果である。有色人種たる日人が世界一等の陸軍國を美事負かしたといふことである。此の事は彼等に甚大の刺戟を與へたのである。勿論印度には國民思想の發育を妨害する者がいくらかもある。例へば異宗教異言語四民制等の如きものである。随つて其の發育は甚しく緩慢である。併し緩慢の故を以て之を輕視する譯には行かぬのである。蝸牛もヒマラヤ山の絶頂に達する時期があるに相違ない。況して目下世界の風潮となつて居る聯合思想の如きは一朝進み出したら存外早いかも知れぬ。蓋し英國が印度を統御するには之を細に割いてして始めて成功するのである。若し實際三億の民衆が一致團結したなら、それこそ大變印度に於ける英國の勢力ぐらゐはその一鼻息で吹き飛ばされて仕舞うのである。

印度には今既に國民思想の結晶點とも見るべき者がある。それは所謂全印度民議會である。此の會は約三十年來印度の各大市街地で開かるゝ可動的討

論會て之に出席する者は勿論教育ある印度人ではあるが種々の宗教や職業の者が混じて且傍聴者も夥しいのである。して其の議題は公共的政治的關係あるもので、發言者は又滔々流るゝが如き辯舌を以て此等の議題を論議するのである。而もその言論は陽に英國に忠義を盡くすが如くに見せ掛けて、陰に之を罵つて居る。英人も初め之を人民の意向を窺ふ方便として大に獎勵したのであるが、餘りに政府攻撃の鋒先が強いのて今では大分神經を起して居る。夫もその管従來英人が味方と思つた回教火教の兩徒までも今では多數議會に出て議會は最早全印度民族の英人排斥の一大機關となり了つて居るのである。目下國民思想の最も能く發育して居るのは、ベンガル人間である。この民族は印度の諸民族中で同一型に鑄流された最大の民團である。口數は約七千萬である。彼等は一民族であると自稱して、その積りて行動して居る。因て英人も亦その積りて之を取扱つて居る。

ベンガル人の團結に對しては、英人も夙に有力な對抗策を取つたのである。即ちカルゾン卿は明治三十八年にそれまで行政上一區域であつたベンガル州を二分して、其全東部である波羅門恒河兩流域といふのを別州として、其の都を



ダッカ市に置いたのである。此二分の表面的理由は、人口激増の結果、二分した方が行政上都合がよいといふのであつたが併し其裏面の理由が下の如くてあつたことは三尺の童子も尙能く知つて居るのである。即ち多數東部に集合して居る回教徒を西部の純印度人から引き離して之を純印度人に對する衝平力とし、傍ら兩部の思想流通を遮る爲め、兩部間に一大障壁を築くといふことであつたのである。よつて其の實行前に當つてベンガル人は非常に反對の聲を揚げたのである。スワデシ運動の巨魁の如きは眞先きに旗を振つて反抗的國民大會を催したのである。神佛に對しては大祈願を籠めたのである。英本國の議會に向けては請願書を出したのである。最後にスワデシ運動の目的を達する爲に英國品に對し大々的のボイコットを實行して英人の財布てふ最も皮肉の個所を衝かんと脅迫したのである。然るにガルゾン卿も勇者である。此等の騒ぎを馬耳東風に聞き流して遠慮會釋もなく其所信を實行し了つたのである。固より卿の勇氣には理由があつたのである。卿はベンガル人の氣質を能く呑込んで居たのである。行政區域の二分ぐらゐを理由として、多數の人民を危険の度迄煽動するとの不可能を見抜いたのである。又スワデシ運動やボイコッ

トの實地行はれ難いとも洞察したのである。卿は土地の性質上ベンガル人が柔弱で口ばかりであることを知つて居たのである。成程卿の先見は中つたのである。併し中らないのは騒ぎの鎮まらないことである。卿は問もなく静まるだらうと思つたのである。所がその後次第に昂進して、今では心ある印度人の脈管中には、外部から如何とも手の付けやうのない最も危険悪性思想の暗流が速度を早めて循環しつゝあるのである。

□ 西洋文物の排斥

以上の外向一の驚くべき運動がある。是れは其の根柢を印度人の英人に對する宗教的反感に置いて居るものである。よつて一層危険と思はるのである。此の宗教的反感には近來泰西文物の排斥運動となつて現はれたのである。印度人は初め泰西の文物に對しては非常に寛大の襟度を示して熱心に之を容れたのであるが、その後之が爲に彼等の間に新舊兩思想の衝突を來したのである。彼等の基督教徒の如きも最初はその勢盛であつたが今日では國粹保存の側から波羅門教復歸の聲が高いのである。又此の波羅門教徒は盛に説



教をして其の再普及を計つて居るのである。固より此等の運動には、政治的意味も含まれて居るには違ひないが、一部は矢張宗教上からである。蓋し彼等は初めは單に西洋排斥をその理想としたのであるが、その後其の理想が彼等自身を犠牲にするまでに、熱狂したのである。數年來動もすれば爆烈弾を弄して政府の官吏を襲撃するのも、全く此の理想昂進の結果といふのである。又彼等は之に依つて一般人民の反抗心を益々強めつゝあるのである。

チロール氏は此の思想を以て印度に於ける反動的諸現象中の最險惡なるものとして居る。是が數千年間印度の思想界を支配した波羅門教徒の英人が輸入した新思想に反對する惡感情の實現であることは、疑ふべからざることである。チロール氏が言ふ如く果して此の思想が印度全國に瀰漫して居るや否やは疑はしいのである。しかし現在の形勢から觀ると差し當り印度を危險に導くものがあつたなら、それは此の思想であると言つても大なる誤りはないのである。勿論現今に於ける英人の印度に有する武力は彼等の蜂起をして、無効に終らしむるに充分なることは何人も疑はないのである。如何に彼等は動いても、本が烏合の人民である。軍隊的訓練を受けない者である。但印度人て恐

るべきものは、前に掲げた土民兵である。此の兵が動搖し始めたならば、其の時こそ容易ならぬとである。必ず宗教的熱狂者が豫ての不平に驅られて、一齊に立つて之に應援することは火を賭るよりも明である。

勿論英國が今日土民兵の募集に非常の注意を拂つて居ることは、争ふべからざる事實である。砲兵の如きは白人のみで組織して居る。兵器廠の如きものも白人兵にのみ委ねてある。其の他出來得る限り危険を避くる手段を取つて居るから、五十餘年前の蜂起の如きは先づないものと見てもよいのである。それに交通の發達は英人をして他の殖民地から應援の兵を迅速に引き寄せしむることも出來るのである。因つて今急に英國の印度に於ける位地が危態に陥ることは萬々ないと思はるのである。併し將來は如何である。時は長いのである。小危険も積れば大危険となるのである。殊に印度問題は大きいのである。種々雑多の異元素から成り立つて、而もその多くは外觀上改善すべからざるものである。解決すべからざるものである。して觀れば心配は常に面前に横はつて居る譯である。

英人は無論之を知つて居るのである。因て苦心憂悶の姿である。殊に英國



が他國と覺隙を開いた時に危険である。それで其の心配も容易ならぬのである。夫に拘らず、英人の印度問題に對する態度は極めて雄々しいのである。壯烈である。實に威服の外ないのである。便ち五年前カルゾン卿がエデンボロの或る會で、印度に關する演説をした時之を結ぶに左の言を以てして居る。諸君も先づ考へられよ、印度は從來同様將來も英吉利氣質と勇氣との試金石で、前進して最後まで遣り通すには、大なる膽力と嚴格なる自信力とを要すること。

□ 有色人種と白人種との大相撲

印度問題は直接吾々日本人に關係あるものではないが間接には大有りても随分重大問題である。乃ち先づ之に對する列國の意向如何を窺ふに、或は英國反對の者の中には内心大に欣ぶ者もあるかも知れぬが心あるものは皆舉つて憂慮して居る。是は獨り英國に好意を表する國の人ばかりでなく、實際英國と疾視反目して居る國人の中にもある。吾が國も目下同國と同盟中ではあるし、無論同情者中に算入すべきものに相違あるまいが、しかし斯ういふことを心

得て居なければならぬ。便ち列國の人が多く英國に同情するのは眞實英國が氣の毒可哀相といふ側からばかりでなく、人種問題の上からする者が多々あるのである。印度人は有色人種である、亞細亞人種であると言ふ側からである。それで印度問題は單に英印兩國人間の問題であるばかりでなく、弘く有色人種と白人種との間の大問題であると看做さるのである。日露戦役以前に在ては、白人は有色人種を取るに足らぬと輕蔑したのである。世界の實權は彼等の手中に在ると信じたのである。所が彼の戦争が意外の結果に終つたのであるから、是に於て白人も大に驚いたのである。世界の實權は未だ全く彼等の握る所ではないことを自覺したのである。蒙古人種の意氣もまだ全く消沈して居ないことを知つたのである。それで忌はしい黄禍の文字まで新鑄されたのである。抑、斯かる文字は白禍あつて始めて現はるべき筋のものであるから、之を弄する者は白禍あるとを自認して居る譯である。白禍がなければ黄禍も黒禍も乃至は有色禍もない譯である。若し又白禍は世界の大勢上已むを得ないものとすれば、黄禍も黒禍もその他の色禍も、生存競争上已むを得ないものと言はなければならぬ。して見ると、頻りに黄禍呼はりをして吾



々を中傷せんとするのは、洵に片腹痛い言といふの外ない。昔から世の中程油断のならぬものはない。一定の目的の爲には結び付き難いもの迄結び付けて居るのである。昔の十字軍は如何である。ゼルサレムを邪教徒の手中に置くのが嫌だと歐洲列國の帝王は之が恢復に自身出陣したのである。又近くは吾が邦に對した三國干渉は如何である。犬猿も管ならざる問柄の國々が譯もなく連合したのである。此等に依つて考へて觀ると、印度問題の及ぼす範圍は頗る宏大である。有色無色、兩人種間の大力争である。亞細亞人種と歐羅巴人種との大格闘である。日本は今は一等国となり上つて英國の同盟もあるが人種の上から觀れば孤立の位置に在る。日本が如何に頑張つても衆寡敵せずとは、古來の格言である。して觀ると天下別け目の戰に於ては吾々は支那人や印度人を友としなければなるまい。すると支那人の秩序的進歩は非常に望ましいことである。又印度人の發展伸張も歡迎したい事である。斯かる次第であるから、若し印度問題が久しからずして爆發したなら其の時こそ、我々は困難な破目に陥るのである。便ち同盟國をも援けたければ、印度人にも同情したいといふ事になる。良し同情しない迄も情に於て印度人壓迫の兵

が果して吾が邦から出され得るものであらうか。是は大なる疑問である。是に因て之を觀れば、印度問題の決して對岸の火災視すべからざるものであることが解る。又我が國は新進の國である。今後は大に發展しなければならぬ。發展すれば自然境界も大きくなる。すると随分異人種に出會はないものでもあるまい。乃ち此等の事に想到すれば、印度問題の吾が爲政治家學者其他一般心ある憂國の士の深い研究に價することは復喋々を要しないのである。



自 然 の 奇 観 終

大正四年九月五日印刷  
大正四年九月十日發行

世界に自然の奇観  
於ける

正價金壹圓五拾錢



著 者 横 山 又 次 郎

發 行 者 大 倉 廣 三 郎

印 刷 者 窪 政 鉄

東京市京橋區南橫町拾八番地

東京市京橋區南橫町拾八番地

發 行 所 廣 文 堂 書 店

振替東京四六八四番  
電話京橋二四六三番

〔 刷 印 會 英 秀 〕



最新名著目錄

文學博士 井上哲次郎先生著

人格と修養

洋裝函入頗美本  
正價 菊判六百八十餘頁  
送料 金壹圓八拾錢

文學博士 久米邦武先生著

時勢と英雄

洋裝函入頗美本  
正價 新形四百八十餘頁  
送料 金壹圓貳拾錢

文學博士 高瀬武次郎先生著

王陽明詳傳

洋裝函入頗美本  
正價 菊判約三百六十餘頁  
送料 金壹圓五拾錢

文學博士 佐々木信綱先生著

文と筆

洋裝函入頗美本  
正價 新形四百六十餘頁  
送料 金壹圓貳拾錢

文學博士 高楠順次郎先生著

道德の眞義

洋裝函入頗美本  
正價 菊判三百餘頁  
送料 金壹圓貳拾錢

最新名著目錄

文學博士 小中村清矩先生遺著

有聲錄

クローヌ綴函入頗美本  
正價 菊判全一冊五百餘頁  
送料 金壹圓五拾錢

理學博士 横山又次郎先生著

世界に於ける自然の奇觀

クローヌ綴函入頗美本  
正價 菊判全一冊四百五十頁  
送料 金壹圓五拾錢

文學博士 加藤玄智先生著

眞修養と新活動

クローヌ綴函入頗美本  
正價 四六判全一冊四百頁  
送料 金壹圓貳拾錢

慶應義塾長 鎌田榮吉先生著

進取論

クローヌ綴函入頗美本  
正價 四六判全一冊四百頁  
送料 金壹圓參拾錢

文學士 樋口龍峽先生著

近代思想の解剖

クローヌ綴函入製本頗美  
正價 菊判全一冊五百餘頁  
送料 金壹圓五拾錢



最新名著目録

文學博士 芳賀矢一先生著  
**學生の友**

クロース綴函入頗美本  
新形紙數九百餘頁  
送料 金壹圓拾錢

文學博士 遠藤隆吉先生著  
**道徳と品性**

クロース綴函入頗美本  
紙數四六判四百餘頁  
送料 金壹圓貳拾錢

文學博士 金澤庄三郎先生著  
**カ―ド式 讀史年表**

クロース表紙カ―ド式  
石版著色印刷鮮明美麗  
送料 金八拾錢

法學博士 水野鍊太郎先生著  
**忙中隨感**

クロース綴函入頗美本  
四六判四百餘頁  
送料 金壹圓貳拾錢

法學博士 浮田和民先生著  
**人格と品位**

クロース綴函入頗美本  
四六判五百餘頁  
送料 金壹圓三拾錢

最新名著目録

文學士 吉田靜致先生著  
**現代と道徳**

クロース綴函入頗美本  
四六判全一冊六百餘頁  
送料 金壹圓五拾錢

黒岩 周六先生著  
**實行論**

クロース綴函入頗美本  
四六判三百五十餘頁  
送料 金九拾錢

早大教授 安部磯雄先生著  
**自修論**

クロース綴函入頗美本  
菊判全一冊五百餘頁  
送料 金壹圓八拾錢

伯爵 大隈重信閣下序文  
**外人の觀たる日本**

洋裝函入頗美製本  
菊判全一冊三百餘頁  
送料 金壹圓參拾錢

文學士 大町桂月先生著  
**我半生の筆**

クロース綴函入體裁優美  
四六判全一冊五百餘頁  
送料 金壹圓



最新名著目錄

法學博士 神戶正雄先生著  
**社會主義及社會的運動**

洋裝函入頗美  
 菊全一冊  
 正價 金壹圓貳拾錢  
 送料 金八錢

法學博士 大場茂馬先生著  
**人權伸張論**

洋裝函入頗美  
 菊全一冊  
 正價 金壹圓貳拾錢  
 送料 金十二錢

法學博士 花井卓藏先生著  
**人生と犯罪**

洋裝函入頗美  
 菊全一冊  
 正價 金壹圓貳拾錢  
 送料 金十二錢

法學博士 粟津清亮先生著  
**處世と人生**

洋裝函入頗美  
 菊全一冊  
 正價 金壹圓貳拾錢  
 送料 金十錢

法學博士 中村進午先生著  
**蛙のはらわた**

洋裝函入頗美  
 菊全一冊  
 正價 金八拾錢  
 送料 金八錢



351  
84



終

